

第3回 MD-PhD コース近況報告会を開催しました

医学部54期 石澤(井澤)有紀

平成30年2月17日(土)、第3回 MD-PhD コース同窓会および近況報告会を開催致しましたのでご報告申し上げます。

【第1部：同窓会総会】

本コースの卒業生・現役生が集まり、平成29年度の活動報告及び今後の活動計画について討議しました。昨年度は SNS を利用した広報活動あるいは情報提供に努めて参りました。少しずつではありますが、学内外に本コースの概要などが浸透しているように感じています。平成30年度の活動計画の概要は以下の通りです。

- ・縦のつながりの強化：名簿の管理・進路の追跡、報告会や交流会の開催
- ・卒業生のキャリア支援：徳島大学公募情報の共有、学内外ロールモデルの呈示
- ・現役生への支援：経済的支援や学部復帰支援に関する情報提供
- ・学部学生の研究活動支援：本報告会の学内公開、Lab 部懇談会の企画など学部教育との連携、医学部生を対象とした国内学術集会等への参加推進

以上の内容を中心に、本コースを志望する学生が安心して研究活動に集中できるよう、また医学生に対し研究の魅力を伝えて行けるよう、微力ながら活動を続けていく所存です。

【第2部：近況報告会】

今年も学内公開で開催し、数名の学部学生や教員の先生方にご参加いただきました。今回は徳島大学 AWA サポートセンターの「女性研究者裾野拡大支援事業」の一環として開催支援をいただきました。はじめに現在の徳島大学や全国における MD-PhD コースの概要について説明し、他大学で同様のコースを選択してきた先生方からのメッセージを紹介いたしました。

高橋恵美先生 (Boston Children's Hospital, Harvard Medical School, Assistant Pro-

fessor, 千葉大学医学部 MD-PhD コース第1期卒業)

岩崎正治先生 (大阪大学微生物研究所 感染症国際研究センター 特任准教授, 九州大学医学部 MD-PhD コース第1期卒業)

お二方ともに卒後医学研究の第一線でご活躍されています。卒業生のキャリアを考える上で非常に参考になり、励みになるお言葉をいただくことができました。同じ道を選択した先輩・仲間として引き続き情報交換をさせていただく所存です。

続いて同窓生の2名から特別講演を賜りました。

講演1) 川添僚也先生「神経難病診療の専門家を目指して」

実際に経験された症例を挙げながら、希少疾患・神経難病の診断に至る過程を紹介してくださいました。3時間にも及ぶ問診からいかに重要なエピソードを引き出し、得られた膨大な量の情報から診断に繋がるものを炙り出していくか。まさに research mind を臨床に活かしている様子を臨場感たっぷりにお話いただきました。

講演2) 荻野広和先生「臨床医になって感じる MD-PhD コースの意義」

大学院時代に培った研究力を武器に、臨床、基礎研究、臨床研究、教育と幅広く精力的に取り組んでおられる様子をご講演いただきました。キャリアの



特別講演2

ターニングポイントにおけるご自身のお気持ちやお考えも赤裸々にお話いただき、その本音トークは後輩にも非常に参考になりました。また、抗がん剤開発などに見られるように基礎医学研究と医療の距離がどんどん縮まっている、というお話も印象的でした。

参加者からは「動画で配信して欲しい」という声もあるくらい、大変ご好評をいただきました。最後に参加者の近況報告、並びに欠席会員からのコメント等を紹介して報告会を終了しました。報告をいただいた同窓生の現況(2018年4月現在)は以下の通りです。

坂根亜由子 (54期)

徳島大学大学院医歯薬学研究部
生化学分野 准教授

石澤有紀 (54期)

徳島大学大学院医歯薬学研究部
薬理学分野 講師

川添僚也 (55期) 東京都立神経病院 神経内科

荻野広和 (56期)

徳島大学大学院医歯薬学研究部
呼吸器・膠原病内科学分野 助教

赤池瑤子 (62期)

倉敷中央病院 病理診断科 後期研修医

三橋惇志 (62期)

徳島大学病院 内科後期研修医

狩野静香 (64期)

四国こどもとおとなの医療センター
初期研修医

酒井遙介 (医学科6年) 徳島大学医学部

藤本将太 (医学科5年) 徳島大学医学部

西條早希 (博士課程3年) 病態生理学

河本知大 (博士課程2年) 人類遺伝学

【第3部：交流会】

場所を移して皆で食事をしながら大いに語り合いました。現役の学生にとって、先輩たちがそれぞれ苦しみながらキャリアを形成していく過程を知るとは新鮮かつ参考になったようです。また同窓会員以外からも大学院生にご参加いただき、今後の研究の発展にも繋がる非常に実りある交流会となりました。

最後になりましたが、本報告会開催にあたりご支援いただきましたAWAサポートセンターおよび医学部後援会に御礼申し上げます。また、青藍会の先輩諸先生方には日頃より格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。MD-PhDコース同窓会会員は、皆、悩み、もがきつつも、確実に力をつけながらそれぞれの道を歩んでいます。また1年後、どんな医師・研究者になっているかこの場でご報告させていただきます。それまで変わらずのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



交流会にて